

NEXTを 語り合う ワークシート

『VIEW21』 高校版
2020年12月号特集

テーマ

生徒を次の学習に向かわせる、学習評価時の声かけ

新学習指導要領では、学習評価（以下、評価）を、生徒の学習改善や教師の指導改善につながるものにしていくことが求められている。そして、生徒の評価の受け止め方を左右するのが、評価を伝える際の教師からの「声かけ」だ。生徒を次の学習に向かわせるのは、どのような声かけなのか、自校の教師とともに本ワークシートを使って考えてみていただきたい。

ワークシートの使い方

本ワークシートを複写、またはダウンロードし、各自が、下記①を記入した上で集まる。教師役と生徒役に分かれ、教師役は①で記入した声かけを実際に行い、生徒役からもらった助言を②に記入する。次に、教師役と生徒役を交替し、同様のことを行う（自分が助言したことも②に記入）。そして、②で記入した内容を踏まえて、実際に生徒に評価を伝える際の声かけや心がけたいことなどを③に記入する。

1

近々、生徒に評価を伝える機会（通知表や定期考査の結果、模擬試験の結果の返却など）を1つ選び、自分が手厚くフォローすることが必要だと思う生徒を1人思い浮かべる。そして、下の「次の学習に向かわせる言語」での支援を参考にしながら、その生徒を次の学習に向かわせる声かけを考え、記入する。

【例】模擬試験の結果の返却

- 評価を伝える機会
- 思い浮かべた生徒の特徴
- 評価を伝える際の声かけ

次の学習に向かわせる言語での支援

小さな成功を見逃さずに褒める

具体的な内容を褒める

結果だけでなくプロセスも褒める

「他の生徒」と比較せず、「過去の当該生徒」と比較して褒める



ファシリテーター役の先生へ

生徒を次の学習に向かわせる声かけは、面談はもちろん、授業やホームルームといった学校生活の様々な場面で、教師によって日常的に行われています。声かけには、その人の個性が表れますから、同僚とは言え、「あなたの声かけは、ここを改善した方がよい」といったアドバイスを受け入れてもらえるかが心配で、踏み込んで助言しにくい場合もあるでしょう。話し合いに先立ち、ファシリテーター役の先生が、「どんなによい声かけだったとしても、さらによくすることはできるはずですから、必ず1つは改善のヒントを助言するようにしましょう」と、他者の声かけにアドバイスをするのはその場のルールであることを宣言してもよいでしょう。

オンライン・ワークショップのご案内

本ワークシートを活用した自校の教師同士による対話を通じて、教育の「これから」を考えるオンライン・ワークショップを開催します。詳しくはP.27をご覧ください。

3

②で記入した、ほかの教師からの助言や自分が行った助言を踏まえて、実際に生徒に評価を伝える際の声かけやその時に心がけたいことなどを記入する。

2

ほかの教師に生徒役になってもらい、①で記入した声かけを実際に行う。①の「次の学習に向かわせる言語での支援」を参考に、生徒役教師から、よかった点や改善した方がよい点について助言をもらい、それを上段に記入する。同様に、自分もほかの教師の声かけを生徒になったつもりで聞き、よかった点や改善した方がよい点を下段に記入し、助言する。

- 自分の声かけに対するほかの教師からの助言
- ほかの教師の声かけに対して自分が行った助言

